

中国を軸に動くアルミリサイクル

トヨタ・プリウス09年度販売台数首位 HV時代到来の陰でアルミ素材の不安

本格的HV時代の 幕開けとなった09年

09年の車名別新車販売ランキングで、1997年の販売開始以来12年を経て、ついにトヨタ自動車のプリウスが首位となった。販売台数は前年比の約3倍となる20万8876台。プリウスを含むHV車の販売台数は全体の11.9%（軽自動車を除く）を占めるに至り、HV車の普及が本格的に進み始めたことが明らかになった。2010年はホンダの「CR-Z」やフィットのHV車などをはじめ各社のHVカーが市場に投下される予定となっており、さらなる伸びが予測される。

HV車伸長の陰で台数を食われたのが軽自動車だ。エコカー減税や新車買い替え補助は、660CC以上の車種に有利であることも影響したとみられ、さらなる軽量化、燃費向上、低価格化によって対抗する構えだ。

軽量化へ進む部材のアルミ化

蓄電池を積載するHV車やEV車をはじめ、自動車の燃費向上に欠かせない軽量化。その中心となるのはアルミ素材の導入である。

従来からエンジンや熱交換器系等の分野に加え、トランク、ボンネットなどのボディシート、サスペンション部品のアル

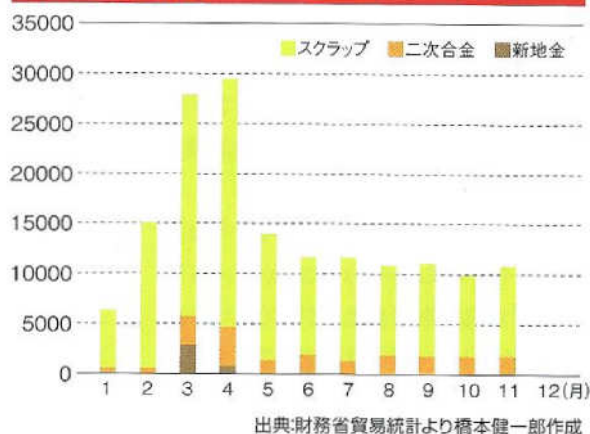
ミ化が進んできた。プリウスの場合、銅電線5m分をアルミ電線に置き換えたほか、ボンネットフード、リアドア、フロント・リアブレーキ、サスペンションなど様々な部分でアルミ化の最新技術が使用されている。また、プリウスをはじめ、日産のリーフ、三菱のi-MiEVなどに搭載されているリチウムイオン電池には、アルミ箔が多用されている。

中国を中心に回る リサイクル材の需要、 価格

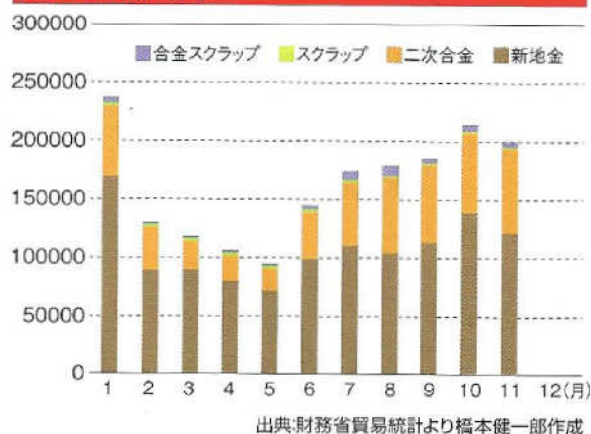
自動車産業に欠かせないアルミ素材は、用途に応じて様々な種類の合金が使われており、その中心はリサイクル素材である。自動車リサイクル法の再資源化数値目標はASR（シュレッターダスト）で2015年70%であり、これをすでに前倒しでクリアしている。しかし、ここで大きな問題が起きている。

「アルミの2次合金、アルミドロスなど各素材は中国での需要が伸びており、価格面でも日本企業への卸値と大きな差がついています。日本企業への卸値では赤字になってしまうので、アルミのリサイクラーは中国への輸出で利益を確保している状態、中国の2009年（暦年）自動車生産台数は年間で1250～1300万台に達する見通しで生産・販売ともに世界一になる見通し。今後この状態はま

09年アルミ輸出推移



09年アルミ輸入推移



すますます進むでしょう」(非鉄金属スクラップ・橋本アルミ(大阪市)の橋本健一郎氏)。中国の2009年(暦年)自動車生産台数は1,000万台を超え、2010年の中国のアルミ地金生産は1,700万トンと2009年見込みの1,400万トンを大きく上回る見込みとなっている。今後さらに中国の需要が伸びれば、国内のアルミ生産はより中国に流れざるを得ない。従来この価格でのアルミ素材供給が難しくなれば、日本企業は価格競争力に大きな懸念を生かせることになる。



非鉄金属スクラップ・
橋本アルミ(大阪市)
橋本 健一郎氏